

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念である「あったか地域で あったか交流 みんなでつくろう あったかの輪」「ゆっくり ゆったりけれどもしっかり」の実現の為に、入居者のペースでの生活を支援する事を念頭にケアの現場にあたっています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念について玄関や詰所に解かりやすく明示し、定期的に勉強会等開き実践に向けて職員全員で全力で取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行政の方々や、ホームへ来られる地域の方々や地域行事参加の際にホームの役割を理解して頂けるようにお話ししたりホームだよりにあったかハウス理念を明記し、配布を行い理解していただいております。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ積極的に農作業中、又は通りがかりの方々へ気軽に声かけや挨拶を行い、散歩の途中で近隣の方が立ち寄られたり、季節の野菜を持ってきていただける雰囲気作りに努め回覧板なので、自治会便り等を施設内に掲示したり、地域の方々と「みんなで作ろう」なので一緒に楽しめる行事を提供したり近隣の方々の交流を深め挨拶を交わしたり話をしたりしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し地域の敬老会・運動会・老人クラブ(お達者クラブ)参加しており、又、事業所の年中行事に地域の方々・小学生・中学生の参加を頂くなど地域住民との交流が図られています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。地域独居老人についても災害時などの施設提供等人材育成の貢献として実習生、福祉体験学習等受入れも積極的に行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちにはない視点からの気づきを頂ける良い機会です。よりよいケアを提供していくために必要な事だと真剣に受け止め、毎月のケア目標を立て、外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営者、第三者委員(公民会長、民生委員、老人会長)、役所の方々と話し合いを行い現状報告等に努め、ご意見・要望等取りいれつつより良いホームを行っている。地域自治会参加にて、ホームへの協力をお願いしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に包括センターの方に、運営推進会議に参加を依頼し市町村の取り組み等を聴き、状況報告等協力して頂き連携強化に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は運営者の指示により説明、アドバイスをを行い支援できる体制が万全に整っている。現在該当者なし。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状況把握を行い家族との連絡も密に取りながら、高齢者虐待防止法に関する浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。現在該当者ないが、勉強会などにて報道等などの情報を活用し改善策の周知に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し同意を得るようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、意見を聴取しやすい雰囲気作りとコミュニケーションをはかり、利用者から意見要望等出た際、即座に対応できる体制を取っている。出された意見は運営や日々のケアに活かしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはホーム内の暮らしぶりを写真やビデオ等を使い説明し、ご要望などもお伺いしている。手紙や電話で健康状態や日々の生活について話したり、ホームだよりを送付して日常の様子を知って頂いています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族会、面会時等、意見箱の設置や常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させている。第三者委員についても説明し、理解を頂いている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と管理者の話し合いの機会も充分もたれ、サービスの質の向上へ向けた意見交換が行われている。職員には、ミーティング等で、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の暮らしが支えられるよう、起床時、就寝時、夜間、入浴等利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。又その都度必要に応じて柔軟に配置を考えています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職があっても、利用者が戸惑わないよう利用者一人ひとりに合わせた対応ができるよう全職員心がけています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修、ホーム内の勉強会の企画など管理者や計画作成担当者のみでなく職員全員が医療や介護について、専門の方を呼んだり研修の場を作って研修、学習できる体制が整っています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や相互研修会での事例検討等を通して事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。親睦の場を作り、気分転換を図れる機会を作っています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過したり、個別職員の業務や悩みを把握している。又職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者、相談等その家族、本人から情報収集した内容を分析の上で、本人の求めている事や不安を理解しようと工夫している。職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者自身が使用していた物の持込もされており、ホームで用意された食器類についても、家庭的なものを使用している。ご家族やそれまで関わった関係者に来て頂き、安心感を持ってもらうようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを、職員が共有しており普段から利用者に教えてもらう事が多い。お互いが共労働しながら、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを、細かく伝える事で、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで、支援していることを伝えていきます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。外出や外泊で、家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の今まで送ってきた生活を理解しながら、農業、油絵、詩吟、俳句、手芸、書道等、これまでの経験を生かした暮らしが出来るよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別な話を聞いたり相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も、行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いが出来るように心がけている。又家族からの相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者サービス会議等で、要望等や本人にとってどこで、誰と、どのように暮らすことが最良なのかを、家族を交えて検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今まで送ってきた生活を理解しながら、これまでの経験を生かした暮らしが出来るよう支援しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の状態を把握し、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で、意見交換やモニタリングを行っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、終了する前であっても、その都度検討、見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、食事、水分量、排泄等、身体状況及び日々の暮らしや本人の言葉エピソード等を記載します。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族状況、要望に合わせて臨機応変に対応している。買い物、外出、外泊も自由です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の商店との交流や、消防、学校関係からの定期的な訪問があり、周辺からの理解協力が得られる様に取り組んでいます。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう地域のケアマネジャーと連携を図っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり関係が強化でき、積極的に交流を深め意見交換を行っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は、ご本人やご家族様の希望に応じて対応している。事業所の協力医の他利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に事業所の協力医療機関の診察を受けており、医師からの助言、指導も受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっている。介護職員と訪問看護の看護師とは気軽に相談できる関係が出来ており、看護師と医療機関との連携も密に取れる体制が確保されています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を入院連絡表にて医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。又、状態の変化があるごとに家族の気持の変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思の確認しながら取り組んでいる。急変した場合はすぐに対応して頂けるよう、医療機関とも密に連携を図り対応しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、本人・ご家族の了解の元、アセスメント、ケアプランや支援状況を手渡すと共に情報交換を行い、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し連携を心がけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を重んじ、各々に合わせた言葉使いや対応を心掛けるようミーティング時、全職員に周知しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望や選択できる場面を多く作り出せるように、利用者に合わせて声かけを行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活できるように、心身の状況や日々の状態に合わせて個別性のある支援を行っています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要なときに手伝うようにしている。行きつけの理容があるも、本人馴染みの理美容院で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうよう連携を取っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員とが同じ食事を同じテーブルを囲んで和やかに談笑しながら楽しんでいる。個々の好き嫌いも把握し心配りしている。又 地域の方から頂いた野菜等についても話題の一部になっています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物など好きな物を買って頂き、ドライブを兼ねて出かけている。嗜好物も理解しており、自由であるも、現在体調に応じてお酒を飲まれる方もおられる。タバコを吸われる方はおりません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個別の排泄状況を確認、記録し排泄パターンを理解の上で定時のトイレ誘導介助を支援している。車椅子の方等、出来る所は声かけ行い、自力駆動を促しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認して入っていただいている。入浴を拒む方に対して言葉掛けや対応の工夫、チームプレイ等家族の協力によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々レクリエーション活動や散歩等、日中の活動等、多くとり夜間の安眠へとつなげている。寝付けないときには添い寝したり、おしゃべりをする等配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、ゴミだし、洗濯物の整理や日常生活のなかで入居者の趣味を生かし着物着付けや、園庭の草取り等、役割や楽しみごとを見出せるような場面作りを支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、お小遣い程度(少額)は本人が持っておられ金銭の管理をして頂いて買い物などは本人が支払ったりお釣りを頂いたりお金を持っている喜びを味わっていただき、金銭管理等、できない入居者様は家族の協力をいただいています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かける		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常的には散歩や買い物を通じて外出の機会をつくり、季節や行事にあわせて目的地を変えながらホームに留まらないような支援がおこなわれています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。定期的に状況報告を行っており、相談等も随時受けられる体制になっています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、都合のいい時間帯にいつでも尋ねて頂けるような配慮をし、お茶を差し上げる等、雰囲気や和むよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所で実施しました、管理者が集まる会にて、理事長や他関係スタッフと共に理解を深め、職員の共有意識を図っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、防犯対策の為に施錠する以外には自由に出入りができるようになっており外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり、一緒について行く等、安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の居場所を確認し、夜間も定時に巡視し、起きられたときには、すぐに対応できるように安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、保管場所の取り決めがされており手軽に扱えないように管理されています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を通じて事故の起こらない介護技術の修得やリスクマネジメントを徹底しています。発生時には、事故報告書、ヒヤリハット、報告書がまとめられており、再発防止に向けて検討する場合に職員の意見だけでなく必要時には主治医からの助言もいただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、普通救命講習受講、消防訓練による心肺蘇生法を行い、初期対応の訓練に取り組んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と共に避難訓練も行っている。地域の協力体制については、自治会でお願いしたり、運営推進委員会での話題を出したり、自治会などの総会等に参加し協力をお願いしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、定期的な会等で家族へ十分な説明すると共に一人ひとりの状態把握し、危険防止に努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時に健康チェックを行い記録を残したり、入浴更衣の際は、皮膚の観察を行うなど、常に異常に気づく努力をしています。又、異常時には、24時間体制で協力医師の判断を仰いでいます。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容、用量を理解し、一週間単位で保管され、職員が内容把握できるようにしている。服薬時は誤薬が無いよう本人に手渡し、きちんと服用されているか、服薬後に異常が見られないかに注意を払っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者個別の排泄状況を確認、記録し、排泄パターンを理解の上で定時のトイレ誘導介助が行われています。また、排泄が上手く出来るよう、レクリエーション等や便の状況に合わせた料理・調理・形態を考えています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の見守り又は介助により、口腔ケアが行われている。他にも毎月歯科医師の訪問診療があり、本人に対しても、また、職員に対しても指導、助言が行われています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有しています。また、管理栄養士に相談を行い献立を作っています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、全職員で学習して予防、対策に努めている。利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種受けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白消毒し、清潔を心がけている。冷蔵庫も点検掃除し、食材の残りは鮮度や賞味期限を確認し、冷凍したり、処分したりしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検は毎日行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口には植物を植え、畑を耕し近隣からふと目を引く外観となっており、通りがかりの人も立ち寄ってしまうほど違和感の無い住まいとなっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい配膳や馴染みの物を取り入れた設備になっています。フローアの飾り付けや家具の配置は利用者と一緒に考え、利用者が使いやすく工夫しています。また、季節になった音楽を流したりし、入居者には昔を思い出していただいたり、安心するよう配慮しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の決まった場所があり、個々自由に和室やソファでくつろいだりと思い思いに過ごせるスペースを確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の位牌、手作りカレンダー等利用者それぞれの居室作りが行われるよう配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々換気が充分に行われ、温度調節は、職員が細めに気遣いながら対応している。外気との温度差がある時は、温度計と入居者の様子を見ながら調節しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、フロアー等などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の出来ること、出来ないこと等把握し、個々に合わせたケアを行い、本人のプライドを意識して対応しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に野菜や花等を植え、入居者と共に成長を見守り、朝夕の水かけも一緒に行動している。外気浴やお茶飲み会も行っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型施設という事もあり、地域との交流・ふれあいを大切に、入居者様が地域の方々に接する機会を多く持ち、又、地域の皆様が気軽に立ち寄り庭先でのお茶のみなど持てる場を提供し（毎月一回、皆で作ろう）、地域の行事（運動会・文化祭・入居者様の油絵の個展・小学校持久走の応援・学習発表会参加・中学校演奏発表会・老人クラブのお達者クラブ参加・ボランティアの受入れ等）にも参加し、グループホームが孤立しないように地域に働く掛けています。又 運営推進会議等に、お願いし地域自治会等にも参加するようになりました